

令和2年10月16日

COVID-19 クラスターを越えて

長崎市立病院機構理事長 片峰 茂

2020年度上半期(4-9月)は、長崎みなとメディカルセンターにとって新型コロナウイルス(COVID-19)という見えざる脅威に向き合い続けた6か月間でした。感染症指定医療機関として、4月末のクルーズ船外国人船員患者を手始めに、病院をあげて地域のCOVID-19感染患者を順次受け入れ治療にあたりましたが、その最中の7月、思いもかけぬ病院内感染クラスターを引き起こしてしまいました。その結果、全ての診療をストップせざるをえず、診療完全再開までに1か月余りの期間を要してしまいました。患者様ならびに市民の皆様には、多大なご迷惑とご心配をおかけしたことを、改めてお詫び申し上げます。

診療再開にあたっては県内外の権威で構成される第三者評価委員会に当院の感染予防体制を評価いただき、万全を期していたはずの予防体制にいくつかの改善点を指摘されました。それを機に、新たにグーグルフォームによる毎日の全職員の体温・健康チェックや全入院患者の事前PCR検査実施などのウイルスを「いれない」対策を徹底するとともに、職員への感染予防教育を強化しマスク着用、手洗い、手指消毒を日々チェックしてウイルスを「ひろげない」対策に万全を期すなど、最高レベルの感染予防体制を誇る病院へと進化を遂げることができたものと考えています。

職員たちも、日々の診療や生活の中で、不安に苛まれ、突然ふりかかった不条理に唇を噛むこともあったようですが、皆よくがんばりました。そして、この非日常的体験から多くのことを学んでくれたと思います。必ずや今後の診療や業務に生きるはずです。

嬉しかったことは、この間、多くの市民の皆様から、書状・メールや横断幕で激励のメッセージを頂き、さらに差し入れ、支援寄付金等の形で心のこもったご支援を頂いたことです。皆様の善意が、困難の中に在った職員たちの心に特別に強く響き、明日への勇気につながったことを、感謝をこめてお伝えしたいと思います。

長崎みなとメディカルセンターは、今後も、地域のCOVID-19診療拠点として、長崎市民の生命と健康を守る砦として、ご期待に応えるべく精進する所存です。市民の皆様のみますのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。